

二月の村のうごき

いわむら

発行所 岩室村役場
印刷所 巻・北洋印刷K.K

No.82

- ▽二日 村民スキー教室
- ▽五日 ラジオ農業学校
- ▽六日 村内校長会議
- ▽七日 総合開発審議会、都市計画、観光商工会同部会
- ▽十三日 三納納例月検査
- ▽十六日 新成人講座、農業委員会委員選挙告示
- ▽二十日 ラジオ農業学校
- ▽二十二日 教育委員会
- ▽二十三日 農業委員会委員選挙

白魔に挑む

ウルトラC 一日50キロ除雪

除雪作業メモ日誌

- ▷1日 前夜から雪が降り続ける。PM1時積雪30cm 出動にそなえて十分に点検してあるブルドーザー、ロードメンテナの2台に投げ乗り白魔に挑む、PM20時仕事を打ちきる。全員疲れは相当に激しい、除雪延長41K、PM22時積雪60cm、対策本部事務局開設。
- ▷2日 雪はさらに激しくなる、除雪したあとの路線に遠慮なく積もる。教時間しか休まずAM2時に出動、外は身をきるような寒さ、ライトの光をたよりに運転、雪に埋った路上駐車車が除雪の障害となる。積雪AM2時75cm、作業時間AM2時～PM18時、除雪延長48km。
- ▷3日 連日対策本部で泊り込み、十分な休まずなまでの作業で全員疲労の色が見えてきた。今日の除雪延長52km、作業員自身この数字におどろく、作業時間AM2時～PM20時、積雪75cm。
- ▷4日 疲労の極度高くなる。間瀬線大型車交通のため、要所に待避所作り、役場職員の動員を願う。吹雪の中シャベルを握る。村長自ら現場指揮、住民の「ごころうさん」の言葉に疲れもやわらぐ。AM6時～PM20時、50Kの除雪、積雪67cm。AM11時大雪注意報解除。
- ▷5日 日曜返上AM8時に作業開始、天気予報が気がかりになる天候回復の見とおしにはっとする。積雪65cm、除雪延長15km。AM12時に終了。
- ▷6日 正月休み返上雪との戦い5日間、体はクタクタ、畳の上で眠ってみたい。除雪の見とおしはついた。今日はブルドーザーだけの出動、待避所つくり。
- ▷7日 雪が再び降る、AM9時、積雪52cm、ブル、ロードメンテナ出動、除雪計画路線36Kを一巡する。野外駐車と道に垂れ下がった樹木が作業の進行をはばむ。PM6時に作業終る。
- ▷8日 除雪の進行は計画以上に進む。住民のごころうさんの言葉に不眠不休の疲労は消える。ブルの調子が悪くなる、無理もない。休みなしの酷使、このブルの力に感謝する。除雪30km、AM9時～PM18時。

作業員によせられる

称賛と感謝の言葉

前年の末日から降り続け、消防団、警察、交通安全協会の雪は二日午前〇時積雪六会、交通運輸業者を網羅、十センチを記録し、更に三日朝八時ついに八〇センチ動員、広域的な除雪をしようとするもの、除雪路線も綿密に調査され、機械による除雪可能道路延長36km及び、積雪60cm以下なら平常除雪及び警戒、それ以上路だけは確保しようというもので、この計画と組織力をフル動員した作業活動は驚異的な結果を示した、この活躍で全村中小型車は交通可能であった。消火栓の確保も行なわれ、防火対策も完全安全に実施された。この除雪作業は村民の協力を得た大きな能力を上げたがその蔭には、役場開発課職員の活躍が更に大きく前進させた。

機械による作業員を中心にして組織され、新年早々からの昼夜間休みなしの稼働に、住民からのもしさぶりに、信頼と称賛の声が数多く寄せられていた。

この言葉に対して、作業員は「自分達に与えられた仕事を果たしただけ……」とひかえめな態度。

しかし除雪計画よりはずれた一部村民より、不満の声が聞かれたが、これは道沿いの障害物、路肩弱、道ばえ進んで協力する態度が路の狭さなどで機械を投入できないため、今後これらの声の解消のためにも道路整備が大きな問題となつてくる。

この問題は、土地補償等利害関係が結びついてくるため、村民が住民意識に芽をえ進んで協力する態度が大きくなるとなると、近いうちに、村当局も、近い将来、降雪を雪害とせず、反対に降雪を観光資源として開発しようとする研究されている。

